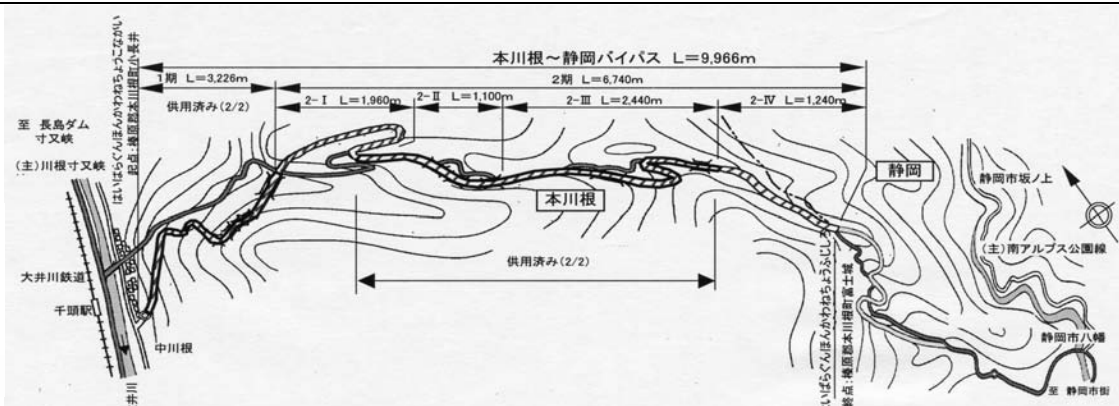


再評価結果（平成16年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課
担当課長名：中島 威夫

事業名 一般国道362号 <small>ほんかわね しずおか</small> 本川根～静岡バイパス	事業区分 一般国道 事業主体 静岡県				
起終点 自：静岡県榛原郡本川根町小長井 <small>はいばら こながい</small> 至：静岡県榛原郡本川根町富士城 <small>ふじしろ</small>					
事業概要 一般国道362号は、愛知県豊川市から静岡県静岡市に至る延長約157kmの主要な幹線道路であるほか、地域の産業や生活に欠くことの出来ない重要な路線である。本川根～静岡バイパスは、一般国道362号の狭隘区間を解消し、安全で円滑な交通確保を目的とした延長10.0kmの2車線道路である。					
S56年度事業化	都市計画決定 (都計なし)				
S57年度用地着手	S58年度工事着手				
全体事業費 約210億円 事業進捗率 87% 供用済延長 6.9km					
計画交通量 1,800台/日					
費用対効果分析結果	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;">B/C (事業全体) 1.0 (残事業) 3.3</td> <td style="width: 30%;">総費用 (残事業)/(事業全体) 29/305億円 〔事業費：23/285億円 維持管理費：6/20億円〕</td> <td style="width: 30%;">総便益 (残事業)/(事業全体) 97/313億円 〔走行時間短縮便益：96/309億円 走行費用減少便益：1/4億円 交通事故減少便益：0/0億円〕</td> <td style="width: 20%;">基準年 平成15年</td> </tr> </table>	B/C (事業全体) 1.0 (残事業) 3.3	総費用 (残事業)/(事業全体) 29/305億円 〔事業費：23/285億円 維持管理費：6/20億円〕	総便益 (残事業)/(事業全体) 97/313億円 〔走行時間短縮便益：96/309億円 走行費用減少便益：1/4億円 交通事故減少便益：0/0億円〕	基準年 平成15年
B/C (事業全体) 1.0 (残事業) 3.3	総費用 (残事業)/(事業全体) 29/305億円 〔事業費：23/285億円 維持管理費：6/20億円〕	総便益 (残事業)/(事業全体) 97/313億円 〔走行時間短縮便益：96/309億円 走行費用減少便益：1/4億円 交通事故減少便益：0/0億円〕	基準年 平成15年		
事業の効果等 ・国土・地域ネットワークの構築（現道等における大型車のすれ違い困難区間を解消する） ・災害への備え（現道等の事前通行規制区間、特殊通行規制区間又は冬期交通障害区間を解消する） 他6項目に該当					
関係する地方公共団体等の意見 一般国道362号は、地域交流の促進等、生活基盤の骨格として重要な役割を果たすことが期待されており、天竜市をはじめとする関係4市6町の首長で構成される国道362号整備促進期成同盟会より早期整備の要望（平成15年8月19日）を受けている。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 県内各地域で合併に向けた動きが活発化する中、それら地域を繋ぐ主要道路として安全で円滑な交通確保に対する期待がさらに高まっている。静岡市（H15.4.1清水市と合併）、本川根町（中川根町と協議中）。					
事業の進捗状況、残事業の内容等 平成5年度までに1期区間（L=3.2km）が完了し、引続き2期区間の整備を進めており、現在までに6.9kmを部分供用している。					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 非常に急峻な地形で、地すべり地帯でもあることから、今後も集中的な投資が必要であるが、用地補償をはじめ事業は順調に進んでおり、早期供用に向け事業の促進を図っていく。					
施設の構造や工法の変更等 新技術・新工法の導入や入札時VE等によるコスト縮減の可能性を勘案し、積極的に取り入れていく予定。					
対応方針 事業継続					
対応方針決定の理由 以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。					
事業概要図					



総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。